

様式(細則 5-2)

令和 5年 2月 8日

浜田市議会議長

笠田 年 様

議員名 牛 尾 昭

## 調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため視察等を行ったので、その結果を報告します。

### 記

1. 期 間 令和 5年 1月31日 ~ 1月31日  
17:30 ~ 22:30
2. 視察内容 議会改革の最新状況
3. 視察先 札幌市議会視察団。
4. 調査経費 4,220 円  
(経費内訳 4,000 円、 220 円)
5. 調査研究活動の概要

別紙にて



## 研修会先

ローカルマニフェスト推進連盟。

目的：議会改革の課題解決の最前線（市議会改革編）

期間、令和5年1月31日、9：30～12：30

オンライン研修会。奥州市議会：菅原議長。

「議長マニフェスト」市民への約束～不断の議会改革に対する決意～「スピード重視の政策決議提案」民意実現のために～当局計画への施策取込作戦～」

要旨：これまでは、付帯意見であったが、昨年から付帯決議を導入した。

議長マニフェスト導入。

- ①予算・決算の連動による政策提言サイクル。
- ②議員間討議の制度化による十分な審議と市民への説明責任に努めます。
- ③なり手不足解消の研究と対策の実施。
- ④定数及び報酬のあり方
- ⑤ワールドカフェ・主権者教育の推進。

\*当局計画への組み込み戦略こそ提言の早期実現のきめて

である。

\*会津若松市：目黒章三郎氏。

「市民意見を起点とし「課題解決」に繋げる政策サイクルのさらなる充実～通年議会の導入と議会活動評価モデルの取り組み～

評価サイクル—任期4年の政策サイクル—議会活動評価モデルや議会成熟度評価サイクルの取り組み。

議会報告会—市民意見の吸い上げ—起点である。

\*2月の予算審査に市民の声を活かす。

\*6月に決算の準備をし政策サイクルを回す。

\*登別市：議長：辻弘之氏。

多様性のある議会の実現へ

\*幅広い議員活動が出来る仕組みづくり

\*改革の始まりは、デジタル推進から～

H24年：議会サポーター制度導入。

R3年：事務局員提案制度導入。

R3年：オンライン委員会—コロナ禍に限らず、様々な議員参加を支える仕組みづくり—試行錯誤でOK。—ICTは、

道具であり使うことが目的ではない。—傍聴規則の見直し—  
児童・乳幼児に図書室を待機室として利用—多世代参加型の  
議会フォーラムの開催。

考察、

議会改革のトップ、会津若松市議会はさすがである。通年議  
会制度を導入して、4年でサイクルを回し、総括して、つぎ  
の任期で議論し、つぎのメンバーにとって大事なものを、サ  
イクルを回していく。ここを、当市議会も目指すべきと思う。  
他の2市もそれぞれ優れていたが、会津若松市議会が、今日  
時点では優れていると感じた。

以上、報告致します。牛尾昭。